

B-30 土壤による綿布の汚染性とその洗淨 (第3報) — 両性, 非イオン系界面
 県立新潟女短大 高橋 功 活性剤の洗淨性—

目的 綿布を用い、鉍質土壤、腐植質土壤それぞれの土壤汚染布を調整し、前報に
 続いて両性系および非イオン系界面活性剤の洗淨性を検討した。

方法 (1)汚染：土壤は鉍質土壤(1, 2, 3), 腐植質土壤(4, 5, 6)計6点を用
 いた。綿布および汚染法、反射率測定は前報のとおりである。

(2)洗淨：界面活性剤は両性系としてBetain型とTego型の2種を、非イオン系
 としてTriton型2種、Tween型4種計6種、比較にア=オン系のNa-DBSを用い総計
 9種で、界面活性剤25部、STPP 25部、 Na_2SO_4 50部、濃度0.2%で、Launder-Tester
 により40°Cで洗淨した。

結果 (1)ア=オン系のNa-DBSは、両性、非イオン系両界面活性剤より、鉍質、腐植
 質両土壤汚染布とも5~10%洗淨度の高い場合が多かった。

(2)両性系、非イオン系は、いずれも洗淨度に大差がなかった。

(3)鉍質土壤のうち、(1)は(2), (3)よりいずれの界面活性剤にも最も高い洗
 淨度を示し、土壤(2), (3)の洗淨度は界面活性剤によつてその順位が変わった。腐植質土
 壤のうち、(6)はいずれの界面活性剤にも洗淨度が最も低く、土壤(4), (5)は、界面活性
 剤によつてその順位は異なるが、(4)の洗淨度の高い場合が多かった。